

2023（令和5）年度 佐久大学看護学部 卒業生・就職先等アンケート実施報告

I. 実施要領

1. 目的

本学の教育カリキュラムの長期的効果を評価し、今後の教育活動等の改善につなげることを目的とし、卒業生及び卒業生が就職している施設の管理者（看護部長ないしは看護部教育担当副部長）から教育成果についてフィードバックを得る。

2. 調査主宰

佐久大学看護学部自己点検評価部会（学部長、学科長、教務委員長、学生委員長）

3. 調査対象

1) 佐久大学看護学部卒業生

(1) 就職先：卒業時就職先のうち、累計人数の多い上位 10 施設

(2) 卒業時期と人数：上記 (1) の施設に就職した卒業生のうち、卒業後 1 年目（2022 年度卒）39 名、同 3 年目（2020 年度卒）45 名、同 5 年目（2018 年度卒）36 名で、合計 120 名

2) 卒業生の就職先の看護管理者

上記の本学部卒業生 (1) の就職先 10 施設の看護管理者 10 名

4. 調査方法

1) アンケート調査

Google フォームを用いた、無記名自記式のアンケート調査。卒業生及び看護管理者への依頼文書内に QR コードとパスワードを記載し、各自の携帯端末を用いて回答する。回答に要する時間は 10 分間程度。

2) 調査の依頼方法

10 施設にアンケート協力依頼を行い、協力同意があった施設を対象にした。同意の得られた施設の看護部宛てに、当該施設に就職した臨床 1, 3, 5 年目に該当する卒業生の名簿（卒業時点の把握内容）と、看護管理者及び卒業生人数分の依頼文書を郵送した。看護部担当者に、該当する卒業生への文書配付を依頼した。

3) 調査時期

実施期間：2023（令和5）年 8 月 24 日（木）8 月学部教授会報告後～9 月 25 日（月）

協力依頼：2023（令和5）年 8 月 24 日（木）～9 月 1 日（金）

データ収集期間：2023（令和5）年 9 月 1 日（金）～9 月 18 日（月）

5. 調査内容

1) 卒業生への調査内容

- (1) フェイスシート：臨床何年目、所属部署の看護領域
- (2) 大学での学び 学修方法が身についたか・役に立っているか
コミュニケーション力が身についたか・役に立っているか
その他に学生時代の経験で、卒業後に役立ったこと
学生生活の満足度
- (3) 佐久大学へのメッセージ

2) 看護管理者への調査内容

佐久大学卒業生についての全体的な印象、お気づきの点、佐久大学に期待すること

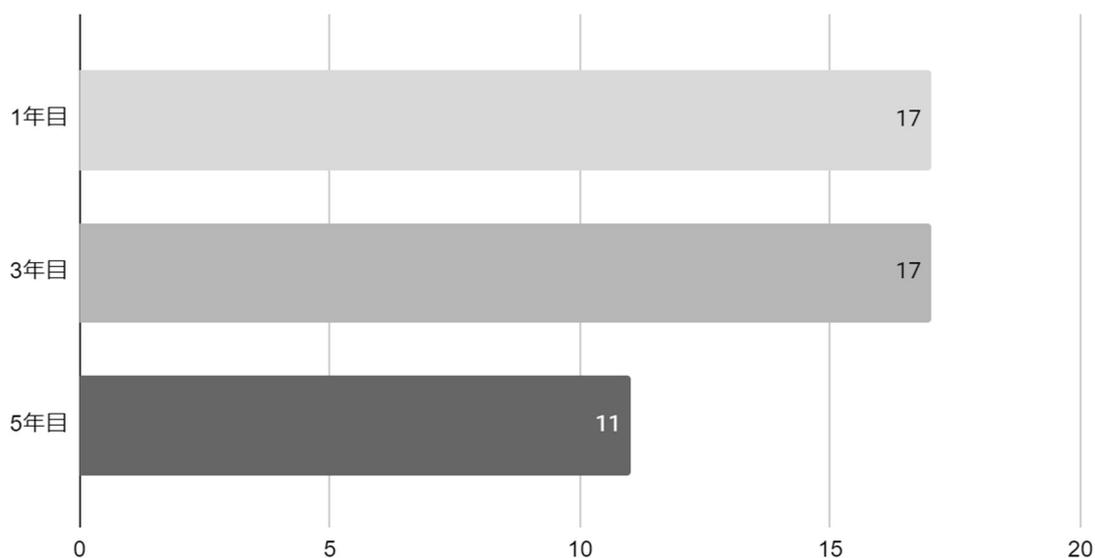
II. 調査結果

卒業生への配付は計 120 名で、45 名（37.5%）から回答が得られた。

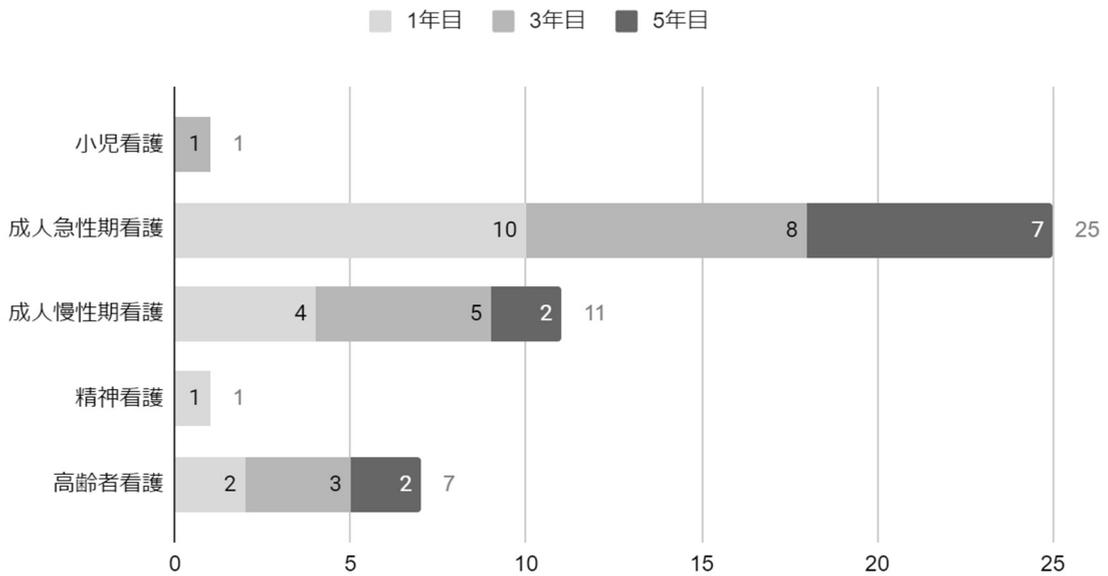
看護管理者への配付は計 10 名で、3 名（33.3%）から回答が得られた。

1. 卒業生の結果

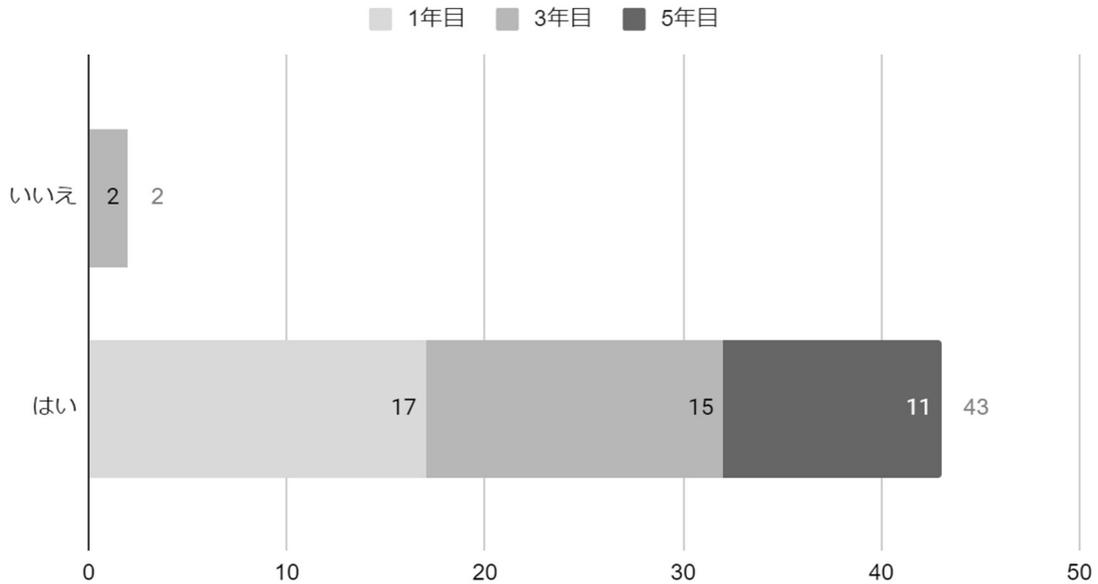
1. あなたの現状について教えてください（設問 1～2）。佐久大学を卒業後、臨床何年目ですか？



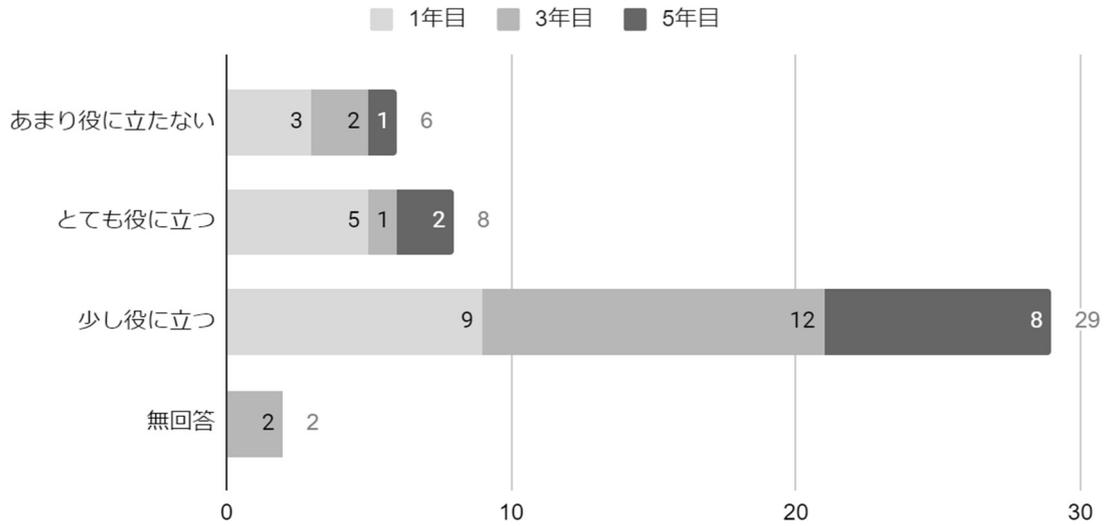
2. あなたの所属部署で行われる看護で、最も多いものを一つお選びください。



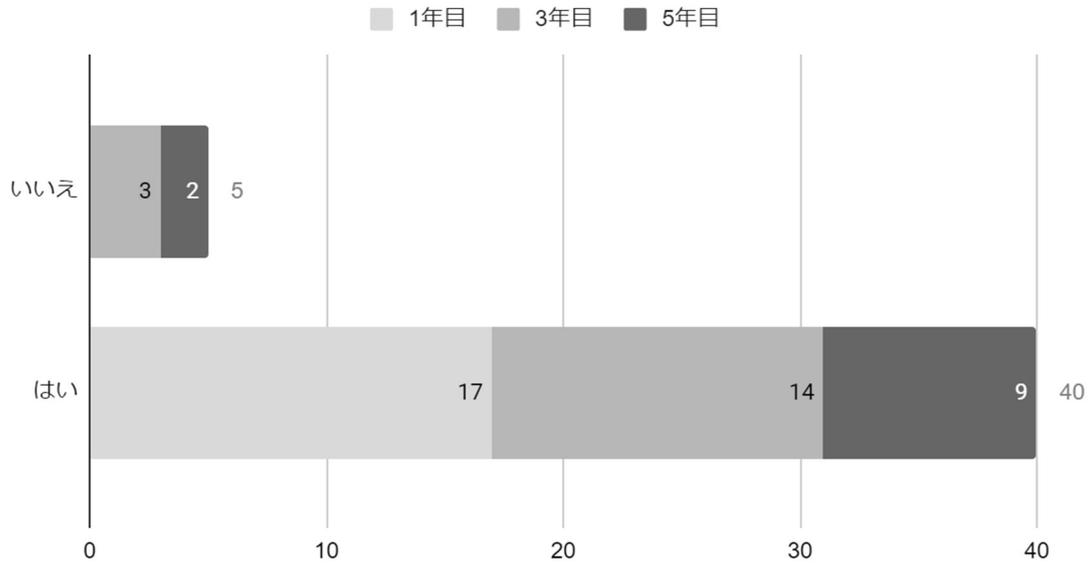
3-1. 学生時代に学修方法が身についたと思いますか？



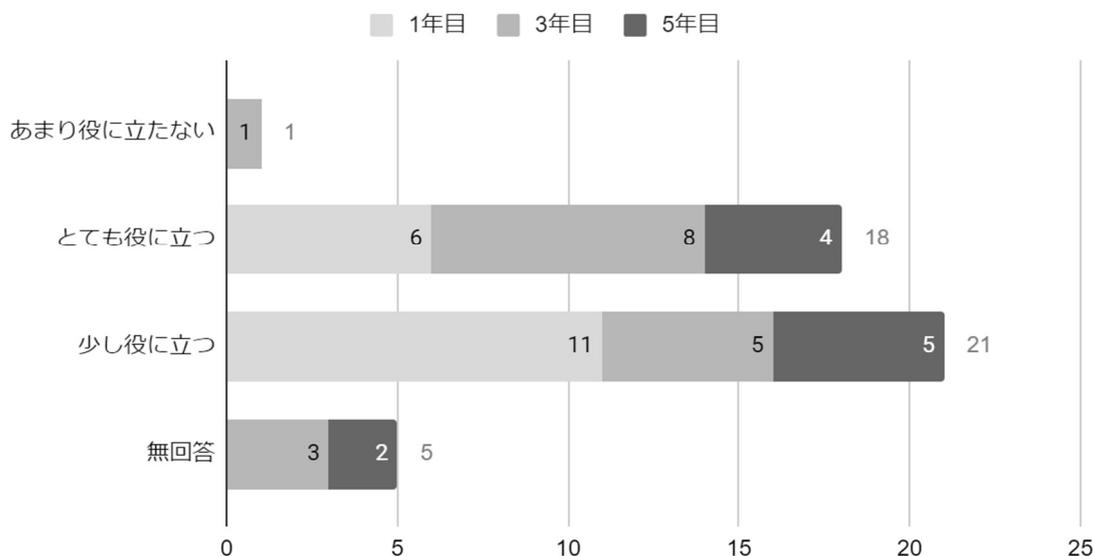
3-2.
3-1で「はい」の方にお尋ねします。その学修方法は、現在、役に立っていますか？



4-1. 学生時代にコミュニケーション力が身についたと思いますか？



4-2. 4-1で「はい」の方にお尋ねします。そのコミュニケーション力は、現在、役に立っていますか？



5. その他、学生時代の経験で、卒業後に役立ったことを教えてください。（自由記述）

（抜粋）

【卒業後1年目】

- 新型コロナウイルスが流行している中でも、少しでも実習を経験することができて、実際の患者さんと関わることが今に活きていると感じる。
- 実習がコロナで学内になったので実践の場は少なかったですが、学内実習の際に自分たちで内容を考えて実習する力がついたので考える力は今も役に立っていると思います。
- 実習をはじめ、看護研究の発表の場面など、多くの人がいる中で自分の意見を言うことは看護師として働いている今、カンファレンスや患者の家族に説明する場面など焦らず、自分の意見をまとめ相手に伝えることが出来ていると思います。
- 体験する演習が多かったため、実際に患者さんと関わる中で患者さんがどんなことを思っているのかなど患者さんのことが考えやすくなりました。
- アセスメントの方法や思考過程が身に付いた。自分に合った勉強方法が獲得できた。

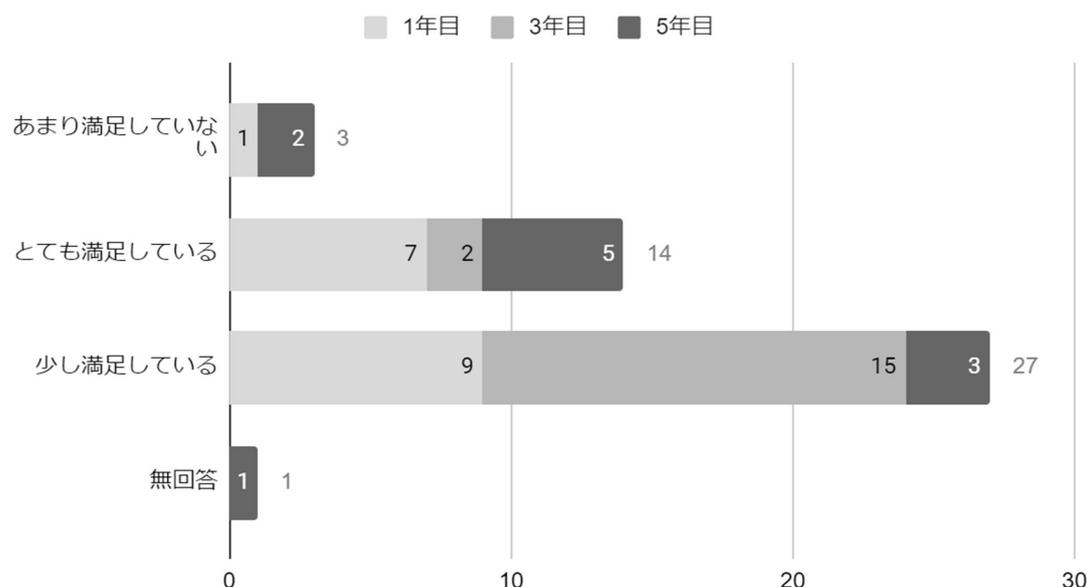
【3年目】

- グループワークの経験は、カンファレンスや病棟チーム内での活発な意見の出し合い、看護方針の相談等に活かしていくことができています。
- レポート作成が当時はたくさんあり大変だと思っていたが、文章を書く力が身につく、職場で看護サマリーなどを記載する際に役に立っていると感じている。

【5年目】

- 時間を守ること、挨拶すること、看護よりも社会人として必要なことのほうが役に立っています
- 自主性

6. 今、学生時代を振り返ると、学生生活の満足度はいかがですか。



7. 最後に、佐久大学へのメッセージをお願いします。(自由記述)

【卒業後1年目】

- 学生時代の勉強が基礎となって、患者さんの病態の理解につながっているため、学生時代にきちんと病気を理解しておくことが大切だと感じました。
- 就職してから、様々な学校から来た同僚と学生時代の話をしませんが、佐久大学は学生生活や実習、国家試験対策や進路などに対するサポートがとても手厚かったのだと改めて感じます。これからも、学生が安心して勉学に励むことができる環境づくりを続けていただきたいと思っています。
- 4年間の手厚いご指導がとても役に立っていると感じています。
- 3年間はコロナで様々な制限のある大学生活でしたが、その環境でも先生方が工夫してくださったおかげで無事に働くことができます。
- 実習や国家試験の勉強など色々大変なことがあると思いますが、今やっていることは必ず看護師となって自分にプラスになることだと思うので、是非頑張ってください。

【3年目】

- 実習や記録など大変なこともありましたが、気さくな先生方が多く気軽にお話しでき、サポートして頂けて乗り越えられました。また佐久大で同じ職業を目指す素敵な

仲間に出会えました。卒業し離れてからも連絡を取り合い励ましあったり、遊びに行ったり充実した日を過ごすことができます。佐久大学を卒業して良かったです。

【5年目】

- 看護技術や知識はだんだんと身につきます。ついてくるものだと思います。だけど社会人としての挨拶だったり患者家族の対応言葉遣いだったり、時間を守ることだったり。当たり前のことが働くことに大切だと思います。そういうところを学生時代に身につけられるといいなと思いますし、自分も見直さなくてはいけないなと思います。

2. 看護管理職の結果

設問：佐久大学卒業生に関しての全体的な印象、お気づきの点、佐久大学に期待すること等、忌憚のないご意見をお聞かせください。（自由記述）（抜粋）

- 全体として、真面目に看護にあたっている。
- 研修時の報告書を読むと論理的な思考が身に付いていると感じる。
- 他の学校の卒業生より早くに自立できる人も多く、頼りになる。しっかり教育されていると感じる。
- 実習を機会に就職を決める方は自分の目指すことがあるため、確実に成長している。
- 接遇面で、容姿や患者さんへの言葉遣いの指導が必要になる人がいる。
- 奨学生の対象期間が終わると自宅近くに戻る方がいるため、これからの成長を期待して育てているつもりなので残念。
- この地域の看護の質の向上のために、講演や研修の企画をしていただきたいです。
- 卒後の看護師が気軽に相談できる窓口が大学にあると良い。病院としても全力でサポートしますが、いろいろなところでサポートできるとなお良いと思う。

3. まとめ、教育活動改善への課題

- 卒業生へのアンケートにおいて、学生時代に学修方法が身についた、コミュニケーション力が身についたとの回答がほとんどであった。また、この二点が現在で役に立つとの回答がほとんどであった。加えて、学生生活に満足しているものがほとんどである。
- 卒業生が学生時代の経験で役に立ったこととして、（コロナ禍で）わずかでも臨床経験をする、（学内実習でも臨地実習でも）どう実習するかを考える、看護の対象者にとってどうかを考える、人前で話す・意見を言う、レポートを書く等が挙げられた。これらは看護師として援助を行う、看護師として患者家族に説明する、カンファレンスや相談で話をする、看護サマリーを書く等に役立っていると評価している。管理者

からは、卒業生の作成した報告書から、論理的思考が身についていると伝わると評価があった。

- また、人として大切な点として、挨拶、言葉使い、時間を守る、主体性などの大切さを挙げ、社会人としての必要性を改めて実感したとの回答があった。卒業生だけでなく、管理者からもその大切さについて言及があった。
- (卒業生が他校卒業生と比べたところ、) 佐久大学は手厚く丁寧な指導で、教職員は気さくに話しやすく、コロナ禍における対応に工夫があったと評価している。高い満足度と、高い回収率(卒業生 37.5%)につながったのではないかと考えられる。
- 以上のことから、この度の高い評価を今後も継続・発展することが課題となる。加えて、人として大切な点(挨拶、言葉使い、時間を守る、主体性)に関しては、教職員が自ら実践する姿勢を改めて意識することが欠かせない。
- 卒業生へのフォローとして、特定の担当者の設定・対応日の設定(大学祭での行事、ホームカミングデーなど)や、大学院進学相談会の活用等の方法もあるが、佐久大学の良さである手厚い指導・気さくに話せる教職員という点を活かし、卒業後も気軽に立ち寄ることのできる・全教職員が窓口になれる大学としてPRできるかもしれない。

以上